

今日は、理科学習支援で北区立神谷小学校にお邪魔しました。校庭に「二宮金次郎像」が健在の、歴史のある小学校です。3年生の「植物クイズ」という学習でした。子どもたちが校庭の植物（草本でも木本でも良い）を採集し、その特徴を5つ挙げて、それがどの植物かを当てるという活動です。神谷小学校の先生は大変熱心で、子どもたちも夢中で探究する姿が印象的でした。そのあと一人一台の照明付きの双眼実体顕微鏡や、移動式の電子顕微鏡での観察もあり、非常に充実した2時間授業でした。

神谷小学校の校庭には、小さな池があります。そこには「ホテイアオイ」がたくさん浮いていて、薄紫色の美しい花が咲いていました。子どもたちはそのホテイアオイも「問題」として採用していましたが、最後に植物を双眼実体顕微鏡で観察した時に、花の中に小さな幼虫を発見した子がいて、その班の周りは大騒ぎでした。

私も覗かせてもらいましたが、確かにクリーム色の小さな幼虫がいました。その時点では昆虫の名称まではわかりませんでしたが、写真を撮っておいたので、あとから詳しく調べると「植物防疫所」の解説書で正体がわかりました。これは「ツマジロクサヨトウ」（稜白草夜盗）というヨトウガの一種の2齢幼虫とわかりました。ヨトウガ（夜盗蛾）の仲間の幼虫は、昼は土の中に隠れていて、夜になると地上の植物を食い荒らします。ヨトウガの幼虫は実にどんな植物でも食べる厄介者ですが、特にトウモロコシやサツマイモの葉を好みます。池のとなりにサツマイモ畑があったので、そこから逃げ出したのかも知れません。

ツマジロクサヨトウはもともと日本にはいない種でした。令和元年に鹿児島県内で最初に確認され、その後国内で急速に拡散、関東（特に埼玉県）でも農業に被害をもたらしています。「ツマジロ」は成虫の形態の特徴（静止姿勢でオスの前翅下部に白い紋がある）、「ヨトウ」は幼虫と行動特性で、和名はその組み合わせになっている点が面白いと思います。

(2023年11月上旬/東京都北区)

